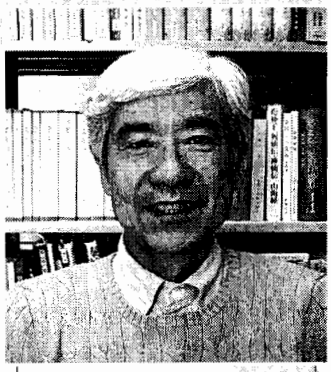
岡山市内の自転車マップ

安全追求、車・歩行者と共存

志野 敏夫さん

自転車愛好者のグループ「おかやま自転車ネット」が岡山市中心部の自転車マップを作製、自転車店などで配布を始めた。マップは新聞紙を開いた程度の大きさ。JR岡山駅を中心とする約5キロ四方の走りやすいルートや走りにくいルート、危険箇所などを表示した。代表を務める志野敏夫・岡山理科大学教授にマップづくりについて聞いた。



（しの・としお）1957年（昭32年）大阪市生まれ。89年早稲田大学大学院文学研究科史学（東洋史）専攻を後期博士課程修了退学。2008年より岡山理科大学教授。著書に「鬼ノ城と吉備津神社」（吉備人出版、共著）など。3年前に「おかやま自転車ネット」を設立。飲酒後にはタクシーに積んで帰れるよう、折り畳み自転車を愛用する。

――マップの狙いは。

「岡山市は平たんな地形でコンパクト。学生も多く、自転車がよく利用されている。ただ、どの地域もそうだろうが、マナーは必ずしも良くない。マップには『自転車安全利用5則』を示して左側通行や歩道での歩行者優先などを呼び掛けた。安全に自転車に乗ってもらい、町中で車や歩行者と共存してほしいとの願いを込めた」

「1年半前に市民に呼び掛けてマップづくりのための調査をした。中心市街地を9つに分け、集まった30人で分担して走った。完成したマップをホームページに掲載したのが1年前。今回、紙に印刷するに当たって、グループのメンバーで再調査も実施した」

――マップの出来栄えは。

「自転車で走りやすいルートを青線、走りにくいルートを赤線で示し、危険箇所や事故多発地点も入れた。主要施設のほかに、自転車店や駐輪場も載せた。1枚の紙に情報を落とし込むには様々な制約があり、あれも足りない、これも足りないという気になる。完成したというよりも、マップづくりのスタートラインに立ったという気持ちだ」

――マップをつくって分かったことはあるか。

「陸橋の自転車通行可の歩道を走っていると、『自転車はおりて』の看板とともに突然、階段に変わる場所があった。線路をくぐる地下道の自転車用通路が急カーブ、急傾斜で見通しが悪く、とても危険だった。ほかにも自転車通行可の歩道を示す標識が少なく、初めて走る人には分かりにくいことも気になった」

――今後のグループの活動やマップづくりは。

「マップは今の中心部のものをより充実させたい。調査でカバーできていない道も多い。範囲を広げるのはまだ先だ。道路交通法に従って自転車で走ると、現状の道路がいかに走りにくいか分かる。市民に呼び掛けて、それを検証する走行会などを開きたい。市民の目線で道路のあり方を考えていく」

――環境に優しい自転車を地域づくりに生かす動きが各地で活発になっている。

「一般論だが、ふだん車にしか乗らない人が自転車政策を議論すると、自転車が車の邪魔にならないようにという発想になりがちだ。私たちは自転車通勤者によるグループにすぎない。まだまだ力は小さいが、自転車が利用しやすい環境をつくるためには行政とも協力していきたい」

ここが聞きたい

利用者目線 重視を

〈記者の目〉自転車マップに表示された危険箇所に行ってみた。岡山駅の北側で線路をくぐる自転車地下道は幅3～4メートル。急傾斜のヘアピンカーブから進入し、出口は直角コーナーを右に曲がって急坂をこぎ上がる。平日の夕方、楽々と駆け抜ける学生のなかに、上り下りを押して歩く年配者も交じっていた。

ここ数年の自転車ブームに加え、震災後は省エネの意識も高まっている。岡山市の官民による都市交通の戦略づくりでも、自転車の活用は柱の一つ。自転車を生かした地域づくりの流れは強まりそう。その中には利用者の目線を取り込むことも重要だ。（岡山支局長　木下修臣）